

《資料》

ヒト血清中酵素活性測定 の 勧告法総論

日本臨床化学会

I. 勧告法を作るに至った経緯

— 施設間検査データの互換性を得るために —

はじめに

臨床化学の技術的側面である臨床化学検査においては、日々、患者から採取した血液・尿・その他の試料について、種々の分析を行っています。生体試料は、いうまでもなく、数えきれないほど多種類の成分の混合物であり、その中に含まれる一つの成分を、このような混合物のままでも正しく測定する理想的な方法は、存在しないかもしれません。しかし、黄疸患者の血清の着色の度合いを黄疸指数として求めたり、血糖や尿糖を試料が示す還元力から求めたり、というような信頼度の低い方法を用いた時代から、生体試料中の成分を測定してその変動から病態を推定することが、診療に役立てられてきました。そして最近では、測定装置の発明・改良と測定方法の考案・開発が相携えて進歩を遂げ、たとえ理想的な方法ではないにしても、信頼度の高い測定データが診療に客観的なよりどころを与えるようになってきました。これによって臨床化学は格段に進歩し、多くの病める人がその恩恵を受けています。

現在では、臨床化学検査の領域で、健康保険の適用を認められているものだけでも、約 200 という多数の成分が測定の対象となり、診療の指標に供されています。これらの指標の測定

は、迅速であること（間に合わなければたとえ正確でも役に立たない）、高感度であること（採血など患者の身体的負担をなるべく小さくする）、安価であること（医療費の節約）などの多くの制約を受けながら、正確に、精度良く測るよう努力が重ねられています。一つの成分の測定についても、より良い測定原理が求められ、その結果として複数の測定法が競い合うようにして用いられている状況も珍しくありません。また、臨床化学検査の普及に伴って、能率化・機械化が進められ、日常検査専用に多種類の自動測定装置が供給されています。そして、多くの試薬メーカーがそれぞれの測定装置を念頭において、より便利なキット試薬として臨床検査薬を供給するようになってきているので、特許、キット化の know how も関わって、試薬の種類は多数を極めています。

〔略 語〕

- AST : aspartate aminotransferase, EC 2.6.1.1,
L-aspartate : 2-oxoglutarate aminotransferase
- ALT : alanine aminotransferase, EC 2.6.1.2, L-alanine : 2-oxoglutarate aminotransferase
- ALP : alkaline phosphatase, EC 3.1.3.1,
orthophosphoric-monoester phosphohydrolyase (alkaline optimum)